



浴衣を手に取る被災地の方々



「被災地の方々の思い出づくりのお役に立てれば」と酒井博章さん。

**DATA**  
 代表者/酒井 幸男  
 住所/京・中京区西洞院通蛸薬師下町古西町436  
 興和セントラルビル5F  
 TEL/075-223-5923  
 Web/http://kyo-wakka.com/  
 事業内容/染具服製造・卸

プロジェクト始動は昨年6月。和装業界として被災地支援を…と模索していた株式会社遊禅庵のスタッフが、被災地10カ所を同時開催される花火大会「LIGHT UP NIPPON」の企画を知ったのがきっかけだった。取締役の酒井博章さんはすぐにその呼びかけ人と連絡を取り、ゆかたを集めて届ける「ゆかたエイド」の併催を決定。親交の深い同業者に声をかけ、実行委員会を立ち上げた。開催日は8月11日。「非常にタイトなスケジュールでしたが、そのおかげがむしろに動くことができたとも言えます」。7月には京都市役所前ほか3カ所ので一般の人々からゆかたを集めるイベントを同時開催。郵送でも受け付け、全国から届いたゆかたは企業協賛品とあわせ、ゆかた約3500枚、帯約2600本に及んだという。

これを東北の花火大会開催地のうち9カ所に発送した。「喜んでいただけると不安でしたが、現地では配布時間前からは行けなかった。みなさんの笑顔を見て、ほっとしました」と振り返る。今年もこのプロジェクトは継続。被災地からの強い要望が、大きなモチベーションになったという。被災地に花火を届ける募金を受け付けるほか、株式会社遊禅庵でもオリジナルゆかたを販売する。「こうしてできた被災地とのご縁を、仕事を通して自立支援に生かしていきたいですね」と酒井さん。今後もしなやかな活動で支援の継続を目指す。

**LIGHT UP NIPPON 2012**  
 日時：2012年8月11日(土)  
 URL：<http://new.lightupnippon.jp/>  
 ゆかたエイドfor LIGHT UP NIPPON実行委員会  
 URL：<http://yukata-aid.jp/>

継続的な取り組み

本所事業を通じた支援活動



被災地で活用した支援機器。3月に搬送したボール旋盤機械。すぐ使えるよう工具一式をつけて送り出された。



「機械は面倒さえ見れば何十年も動いてくれます」と語る榎藤達郎さん

**DATA**  
 代表者/榎藤 達郎  
 住所/京・南区上烏羽田町28  
 TEL/075-691-9171  
 Web/http://www.kashifuji.co.jp/  
 事業内容/ホブ盤・歯車仕上盤、ホブ刃溝研削盤・面取盤・精密複合加工機等の製造、販売

この震災で多くの工場が被災したことを受け、本所では日本商工会議所はじめ全国の商工会議所とともに「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」を開始した。これは全国の事業者から遊休機械等の無償提供を募り、被災地事業者の要望に合わせて無償で引き渡すというもの。京都府内の事業所からも多くの機械提供のお申し出をいただき、マッチングが成立した機械が続々と被災地に送られていく。そのなかの一社、株式会社シフジの取締役社長、榎藤達郎さんにお話を伺った。同社の創業は1913年。工作機械づくり一筋に、日本の重工業の発展とともに歩んできた。「普段、我々が表に出ることはありませんが、日本の基幹産業の縁の下の力持ちと自負しています。何が

あっても機械を動かす続けることの重要性を知るからこそ、同じ立場でがんばってきた東北の企業の被災は他人ごとではありませんでした。おそらく多くの企業が同様に思っていたことでしょう。プロジェクトは、本当に素晴らしいと思います。たとえ競合関係にあっても、困った時に手をさしのべたいのは、日本人ならではの美点といえよう。「長く使ってきた機械でお役に立てたことが嬉しい。お金では伝わらない心が伝えられた気がします。言葉の端々からも、機械への愛情と責任感にしみ出る。日本のモノづくりの源流にある真摯な姿勢、確かなつながりは、復興への大きな力になるに違いない。」

株式会社カシフジ

日本のモノづくりをともに支える自負と連携。

シリーズ  
第3回

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際し、積極的に復旧・復興支援に携わった本所会員企業の取り組みを紹介してきた本シリーズの最終回。この連載で紹介した企業・団体には、共通して復興に力がある使命感と行動力がありました。被災地では今もなお課題が山積していますが、この連載が今後の活動のヒントになれば嬉しいですね。被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

復興 京都から元気を東北へ 京都企業の復興支援活動



小学校の子どもたちからは、記念写真や絵、作文など微笑ましいお礼が届いた。



伝統工芸士として活躍する三代目安藤桂甫さん。

**DATA**  
 代表者/二代目 安藤桂甫(忠男)、三代目 安藤桂甫(忠彦)  
 住所/京・上京区油小路通丸太町上ル米屋町273  
 TEL/075-231-7466  
 Web/http://www.ando-doll.com/  
 事業内容/雛人形・五月人形・観音・京人形の製造、卸、小売業

「雛人形は、子どもの健やかな成長への願い、厄除の祈りをこめてつくられ、飾られてきたもの。それだけに、奇贈が決まった時は嬉しかったですね」と語るのは、京人形の老舗である同店の三代目安藤桂甫さん。全国にも名高い「京雛」は、顔、髪付、手足、衣裳、小道具など、徹底した分業制が貫かれ、それぞれ熟練した職人によって手づくりされているのが特長。なかでも安藤さんはこれらを合わせて人形に仕上げ「着付け師」の役割を担ってきた。ひとつひとつ、慈しむように完成された京雛は、まさに京都の技と美意識の結晶といえる。

「震災以降、私たちの仕事で被災地のお役に立つことができないだろうか」と、ずっと家内と考えていました。そんな時、甚大な津波被害を受けた仙台市の二つの小学校と一つの幼稚園に京雛を奇贈することに。明るい気持ちになってほしくて衣裳も明るい色を選んでくれました」と語る安藤さん。その思いが届いたのだろう、ほどなく子どもたちから送られてきたお礼の写真や作文、絵には笑顔があふれていた。「人形には人を元気にするオーラがあるんですよ」という安藤さんの言葉にも説得力がある。京雛の美はきつと、取り戻した笑顔の思い出とともに子どもたちの心に深く刻まれることだろう。

桂甫作 安藤人形店

省エネの夏、被災児童へ扇子・団扇でエール。

京都扇子団扇商工協同組合

同組合は、京都の扇子・団扇づくりの職人および販売業者で構成されている。都の文化に育まれた伝統と匠の技を誇る「京扇子」「京うちわ」は、同組合の登録商標でもある。「互いに助け合いつつ長く続けてきた業界だけに、社会貢献への関心も高い。復興支援についても、震災後すぐの役員会で声があがりました。夏に向けて電力が不足する中、子どもの製品がお役に立てるのでは」と理事長の大西庄兵衛さんが語る。ほどなく京都市伝統産業課の協力を得て、姉妹都市仙台の小中学校に扇子と団扇を奇贈することになった。

組合有志が集まったのは3千本あまり。種類はまちまちで、なかには茶道用の扇子や舞扇まで。多くの人が協力して



子どもたちのメッセージが添えられた扇子。



大西庄兵衛さん。天保年間創業の大西京扇堂九代目当主。

**DATA**  
 代表者/大西 庄兵衛  
 住所/京・左京区岡崎成勝寺町9-1 都市勤業館内  
 KYOオアシス  
 TEL/075-761-3572  
 Web/http://www.sensu-uchiwa.or.jp/

くれた証ですね。さらに元気づける言葉を添えようということで、京都の市立小学校の児童たちにメッセージを書き入れてもらい、7月には無事、被災地に送ることができました。のちに子どもたちから届いた礼状の中には、京都の伝統にふれ感謝したという言葉もあり、改めて組合員たちの心を熱くしたという。さらに今年は、京都で避難生活をおくる被災者から希望者を募り、5月20日の三船祭の際、組合が主催する扇流しへ招待した。「扇子や団扇はずっと日本人の暮らしに寄り添ってきたもの。これにふれることで生まれる快さや心の潤いが、少しでも今後を生きる糧になれば」。思いは人々の心にやさしい風を送り続ける。

京都の美しさを届ける活動